

防災気象情報をもっと知ろう

特別警報

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

○気象等に関する特別警報の発表基準

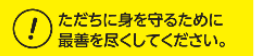
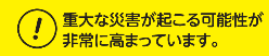
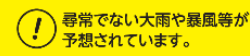
現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

※発表にあたっては、降水量、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標が設けられており、これらの実況および予想に基づいて気象庁が判断します。

○地震(地震動)・火山・津波に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上または長周期地震動階級4の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上または長周期地震動階級4)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

※これらの特別警報は、名称に「特別警報」は用いず、従来どおりの名称で発表されます。



雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量 (mm)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上20未満	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。 寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。	地面一面に水たまりができる。	—
強い雨	20以上30未満	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。		ワイパーを速くしても見つらい。	
激しい雨	30以上50未満	バケツをひっくり返したように降る。			道路が川のようなになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象)
非常に激しい雨	50以上80未満	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険。
猛烈な雨	80以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

風の強さと吹き方

予報用語	平均風速 (m/s)	およよその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およよその瞬間風速(m/s)
やや強い風	10以上15未満	～50km	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	種(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上20未満	～70km	高速道路の自動車	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
非常に強い風	20以上25未満	～90km		何かにつかまっていけないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常の速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40
猛烈な風	30以上35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
	35以上40未満	～140km					外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	60
	40以上	140km～					住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	

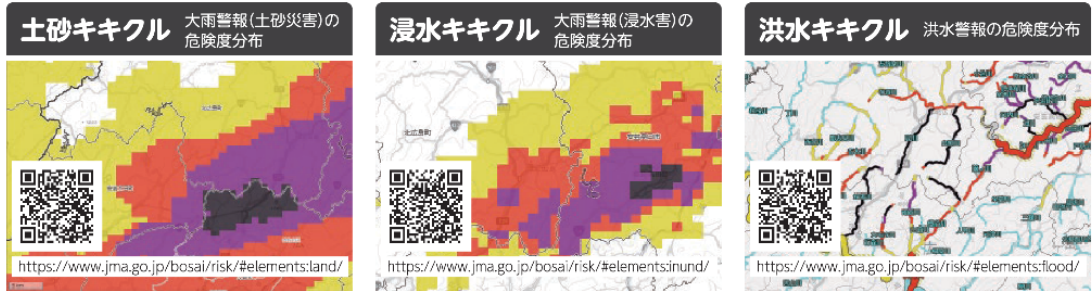
台風の大きさと強さ

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s(64ノット)以上44m/s(85ノット)未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44 m/s(85ノット)以上54m/s(105ノット)未満
		猛烈な	54m/s(105ノット)以上

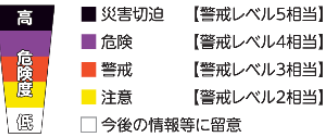
出典：気象庁ウェブサイトより編集

キキクル（危険度分布）

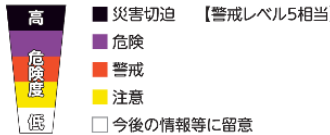
どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。



紫:崖・渓流の近くは危険



紫:低地は危険



紫:河川沿いは危険



※使用している携帯電話・アプリケーションによっては二次元コードの読み取りができない場合があります。

土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

危険な場所からの避難が必要な**警戒レベル4に相当**します。土砂災害警戒情報が発表された市町村内で**危険度が高まっている詳細な領域は土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)**で確認できます。

土砂災害によって命が脅かされる危険性が認められる土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、遅くとも該当領域に「危険」(紫色)が出現した時点で速やかに避難を開始することが大変重要です。周囲の状況や雨の降り方にも留意し、危険を感じたら躊躇することなく自主避難を行いましょう。

気象防災速報（記録的短時間大雨）

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表します。

この情報は、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために、雨量基準を満たし、かつ、大雨警報発表中に、**キキクル(危険度分布)**の「危険」(紫)が出現している場合に気象庁から発表されます。

この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを**キキクル(危険度分布)**で確認してください。

気象防災速報（線状降水帯発生）

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。**警戒レベル4相当以上の状況で気象庁から発表**されます。

顕著な大雨に関する情報が発表されていなくとも、広範囲で激しい雨が長時間継続するような場合には、甚大な災害が発生する場合があります。顕著な大雨に関する気象情報を待つことなく、災害発生の危険度の高まりを示す**キキクル(危険度分布)**を活用いただくことが極めて重要です。

出典：内閣府・気象庁ウェブサイトより編集

警戒レベルをもっと知ろう

警戒レベルについて

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒 レベル	状 況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				河川氾濫	大 雨
5	災害発生 又は切迫	命の危険直ちに安全確保! - 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 - 警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません! - ただし、警戒レベル5は、市町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5 相当	レベル5 氾濫特別警報 レベル5 大雨特別警報
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~					
4	災害の おそれ高い	<b>危険な場所から全員避難</b>      警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4 相当	<b>レベル4 氾濫危険警報</b> <b>レベル4 大雨危険警報</b>
3	災害の おそれあり	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b>      「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。    - さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3 相当	<b>レベル3 氾濫警報</b> <b>レベル3 大雨警報</b>
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	注意報	2 相当	<b>レベル2 氾濫注意報</b> <b>レベル2 大雨注意報</b>
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相当	—

※市町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「**自分で判断する**」ということです。

**警戒レベル5緊急安全確保** はすでに災害が発生・切迫している状況です。

また、必ず発令されるものではありません。

**警戒レベル3高齢者等避難** や

**警戒レベル4避難指示** で、

住民の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。



出典: 内閣府・気象庁ウェブサイトより編集

※この警戒レベル情報は2026年1月時点の情報です。内容が変更される場合には田辺市ホームページ等でお知らせいたします。

# 洪水・浸水害をもっと知ろう

## 氾濫の種類

### 外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破壊するなどして堤防から水があふれ出す現象。



### 内水氾濫

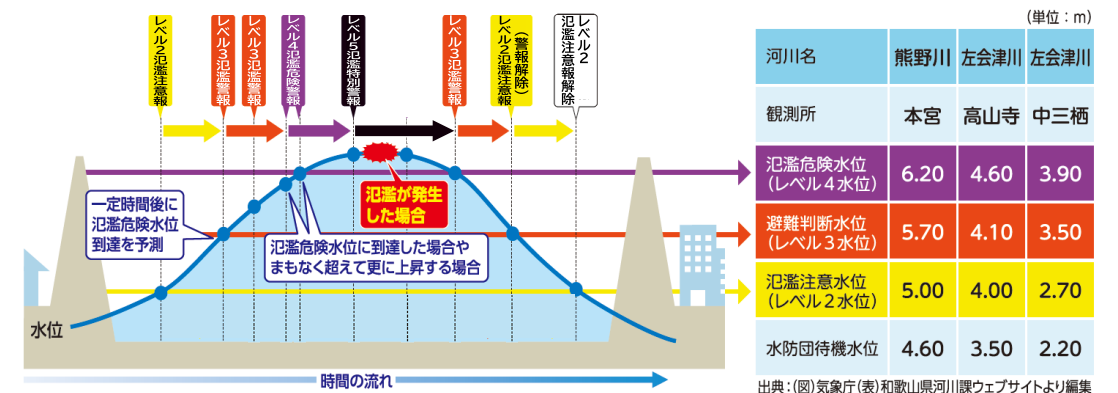
下水道・支川等の雨水排水能力を上回り浸水あるいは河川水位の上昇により、下水道・支川等から河川へ放流できず浸水する現象。



出典: 国土交通省ウェブサイトより編集

## 河川の危険水位と洪水予報等

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、洪水予報河川の熊野川については、河川管理者と気象庁から警報等が発表されます。水位周知河川の左会津川については、レベル3大雨警報が発表されます。市町村は、この情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



## 避難行動のポイント、危険な場所

### 1 情報の確認

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の気象情報や避難指示等に関する情報入手しましょう。

### 2 防災責任者の指示に従う

避難のときは警察・消防・地元の防災責任者などの指示に従って行動しましょう。独断での行動は大変危険です。

### 3 動きやすい服装、集団での避難

避難するときは、動きやすい格好で、二人以上での行動を心がけましょう。

### 4 避難時の歩き方

避難中はできるだけ浸水していない場所を歩きましょう。避難途中で危険を感じたら、自宅の二階以上や近所のビルに避難しましょう。

浸水している場合には下水道のマンホールや側溝等への転落のおそれがあり危険ですので注意しましょう。

### 5 隣近所への呼びかけ

お年寄りや子供、病気の人は早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病気の人などの避難に協力しましょう。情報伝達や避難場所をとりまとめておくとう便利です。

### 6 車での避難は危険

自動車が水に浸かると動かなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして大変危険です。自動車での避難は特別の場合を除きやめましょう。

### 7 橋や川の近くは危険

川が増水している場合には、川の流が速く、橋が壊れたり流されたりして非常に危険ですので、近寄らないようにしましょう。

### 8 川や用水路を見に行かない

大雨の時に、川や用水路の様子を見に行つたことで流されて被害に遭う場合があります。大雨時には絶対に川や用水路を見に行くことはやめましょう。

出典: 国土交通省ウェブサイトより編集